

活動報告書

2024年度

大阪府
こども食堂
ネットワーク



もくじ

01

設立の経緯

02

活動の目的

03

これまでの歩み

04

大阪府子ども食堂ネットワークの概要

05

2024年度の主な取り組み

06

まとめ

01 活動の背景

大阪府こども食堂ネットワークは、新型コロナウイルス感染症の影響により学校が一斉休校となった際、家庭で安心して過ごせない子どもたちの居場所が失われた状況に対する危機感から、大阪大学COデザインセンターに集う有志によって、子どもたちの実態を把握しようと、大阪府内を中心に調査を試みたことがきっかけとなり、誕生しました。

当初、大学では、小学校を対象にした調査を検討しましたが、実施の難しさから、大阪府が公開していたこども食堂の連絡先リストを活用した調査を行いました。この調査では、新型コロナウイルスが猛威を振るう中、多くのこども食堂がお弁当や食料を配布するなど、地域でできる支援を模索し、活動を継続している事例を確認することができました。

さらに、調査に協力してくださった活動団体から特に多く寄せられたのが、「こども食堂同士がつながれない」「自治体や学校との関係性が築きにくい」といった、連携不足に関する課題でした。

私たちは、調査によって見えた課題を研究機関だけにとどめるのではなく、シンポジウムの開催を通じて、広く社会へ情報発信しました。その結果、同様の課題に気づき、地域で中間支援活動に取り組む多様な関係者に会うことができました。

調査や情報発信からつながった各地域からは、中間支援に関する情報や資源を共有し、そのあり方を対話することのできる、より広域的なネットワークを求める声があることがわかりました。

こうした声を受け、府内の自治体や社会福祉協議会、民間非営利団体などと連携しながら、多様な特色をもつ地域が混在する大阪府内で広域的なネットワークの立ち上げを目指して準備をすすめました。およそ1年にわたる準備期間を経て、2023年3月、大阪府こども食堂ネットワークが正式に立ち上がりました。

02 活動の目的

1 地域ではぐくむ

「地域のつながりを通じて、こどもと未来を育む」ことを目的としています。

2 対話の場づくり

さまざまな立場や分野の人々が自由に対話し、協働する仕組みを整え、子どもたちと社会を支える基盤をともに築いていくことを目指しています。

3 実践と知の共創

「調査・実践・対話」の往還を軸に、現場で見えてきた課題を大学での研究に還元し、課題解決に資する知見の構築を図っています。

相談対応とネットワーク化支援

地域（市区町村域など）の状況をしっかりと踏まえ、こども食堂に関わる自治体・社協・民間団体などへの相談対応とともに、必要に応じて組織間における連携・協働の関係づくりやネットワーク化を支援する。

多様な主体間の交流機会の提供

自治体・社協・民間団体・企業・こども食堂運営者など、様々な立場・分野の主体が対話・交流できる機会を提供する。

学びの場の提供

実践および調査研究からの知見などを基に、こども食堂に関わる多様な主体が相互に学び、さらなる実践につながる研修等の学びの場を提供する。

調査研究及び政策提言

各種調査研究を通じ、こども食堂や地域ネットワーク等の現状・課題などの調査・分析、見える化を進め、自治体等への政策提案をはじめ、多様な主体への働きかけ・情報発信を行う。

03 これまでの歩み

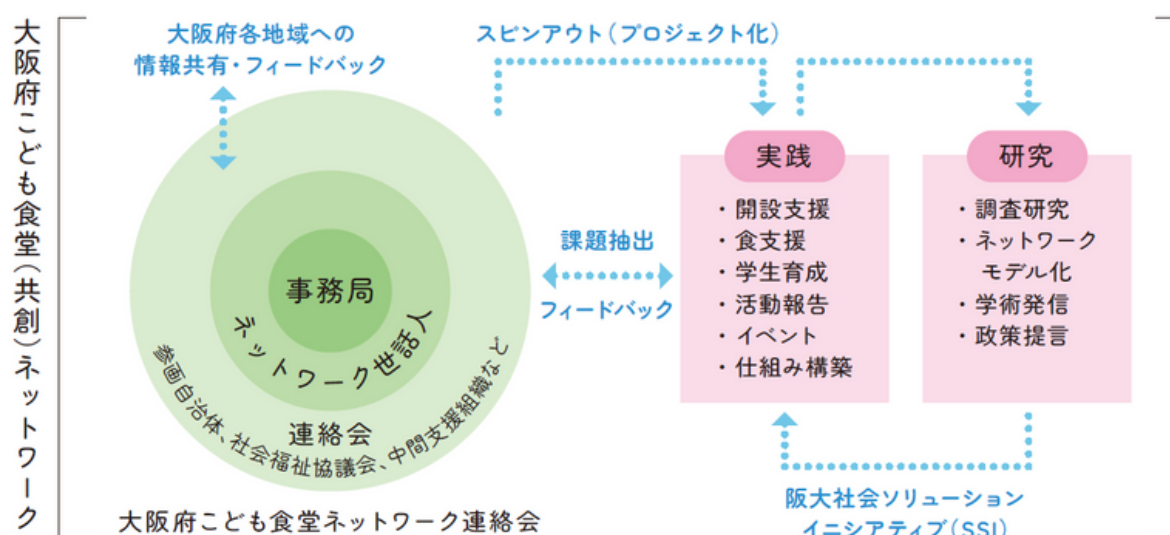
	種別	日時	場所	内容	参加者
2021年度	研究調査	2020年4月～5月	—	大阪大学CO ₂ デザインセンター 「地域ではぐくむ子どもと未来」プロジェクト 第1回こども食堂アンケート調査実施	—
	Co ₂ デザインシンポジウム	2021年2月23日(火) 13:00～16:30	オンライン	プログラム 1.あいさつ 2.基調講演 3.話題提供①～② 4.全体ディスカッション 5.閉会のあいさつ	自治体20名 非営利26名 任意団体57名 民間団体36名 大学56名 その他20名
	研究調査	2022年2月	—	大阪大学CO ₂ デザインセンター 「地域ではぐくむ子どもと未来」プロジェクト 第2回こども食堂アンケート調査実施	—
	Co ₂ デザインシンポジウム 第1回連絡会	2022年3月12日(土) 14:00～16:50	オンライン @グランドフロント大阪ター C8F ルッジキャピタルCO2	プログラム 1.事務説明 2.開会あいさつ 3.基調講演 4.講演①～③ 5.パネルディスカッション 6.閉会あいさつ	自治体18名 社協3名 非営利16名 任意団体16名 民間団体9名 大学45名 その他16名
2022年度	第2回連絡会	2022年7月4日(月) 16:15～18:00	@グランドフロント大阪ター 大阪大学オープンイノベーション カフェ	プログラム 1.あいさつ 2.自己紹介 3.活動進捗紹介 4.質疑応答・意見交換 5.まとめ	自治体9名 社協5名 非営利12名 民間団体7名 大学5名
	世話人会	2022年11月21日(月) 17:00～	オンライン	議題: 1.第3回連絡会開催日の予定 2.世話人会の役割・進め方 3.その他	自治体5名 社協4名 非営利4名 大学3名
	世話人会	2022年12月27日(火) 15:30～	オンライン	議題: 0.はじめに・協働事務局について 1.大阪府こども食堂ネットワークの全体像について 2.概要について 3.世話人会の概要と役割 4.今後の流れについて 5.その他	自治体5名 社協4名 非営利6名 大学2名
	世話人会	2023年2月3日(金) 16:00～	オンライン	議題: 1.ネットワークの概要について 2.世話人・連絡会の心得 3.連絡会の進め方 4.中間支援組織の呼びかけについて 5.今後について 6.その他	自治体5名 社協5名 非営利5名 大学1名
	第3回連絡会	2023年3月3日(金) 14:00～16:00	@グランドフロント大阪ター 大阪大学オープンイノベーション カフェ	プログラム 1.あいさつ 2.今日の流れ 3.連絡会の概要等について 4.アイスブレイキング 5.情報交換・話題提供 6.総評 7.その他	自治体10名 社協7名 非営利10名 民間団体2名 大学8名
2023年度	世話人会	2023年5月26日(金) 15:30～16:30	オンライン	議題: 1.はじめに 2.大阪府こども食堂ネットワークの全体像について 3.大阪府こども食堂ネットワークお披露目会(案)について 4.今後の流れについて	自治体3名 社協4名 非営利6名 大学2名
	世話人会	2023年7月31日(月) 10:00～	オンライン	議題: 1.シンポジウムのプログラムの共催 2.シンポジウムの準備の進め方 3.パネルディスカッションのテーマ	自治体3名 社協1名 非営利3名 大学2名

2023年度	SSI基幹 プロジェクト 共創ネットワーク シンポジウム	2023年9月6日(水) 13:00～17:30	@大阪大学中之島センター 7Fセミナー室	プログラム: 1.あいさつ 2.大阪府子ども食堂ネットワーク連絡会の紹介 3.基調講演 4.パネルディスカッション 5.閉会 6.名刺交換会	自治体19名 社協19名 非営利16名 民間団体18名 大学14名 その他3名
	世話人会	2024年1月15日(水) 10:30～	オンライン	議題: 1.予算・事務局機能など 2.連絡会について 3.その他	—
	第4回連絡会	2024年2月28日(水) 14:00～16:00	@大阪大学中之島センター 5F いのち共感ひろば	プログラム: 1.事務局あいさつ 2.話題提供 3.団体交流 4.交流企画	自治体14名 社協6名 非営利6名 任意団体1名 大学5名
	世話人会	2024年3月12日(火) 14:00～	オンライン	議題: 1.事務局引継ぎ 2.大阪府子ども食堂ネットワークの次年度実施案 3.ホームページの進捗 4.その他	—
2024年度	世話人会	2024年4月23日(火) 10:30～	オンライン	議題: 1.事務局よりお知らせ 2.新プロジェクト・モデルケースの報告 3.今年度の連絡 4.研究会より 5.次回世話会会の予定	自治体4名 社協4名 非営利5名 大学2名
	世話人会	2024年7月23日(火) 13:00～	オンライン	議題: 1.今年度の連絡会／イベント開催計画 2.事務局よりお知らせ 3.新プロジェクト・モデルケースの報告 4.研究会より 5.次回世話会会議の予定	自治体2名 社協3名 非営利3名 大学2名
	SSI基幹 プロジェクト 共創ネットワーク シンポジウム	2024年9月26日(水) 13:00～17:00	@大阪大学中之島センター 5F いのち共感ひろば	プログラム: 1.開会あいさつ 2.基調講演 3.名刺交換会 4.講演① 5.話題提供①～③ 6.グループワーク 7.閉会あいさつ	自治体19名 社協14名 非営利9名 任意団体2名 民間団体3名 大学12名
	世話人会	2024年11月27日(火) 10:00～	オンライン	議題: 1.学校・架け橋プロジェクト 2.となりの人間国宝さんシリーズ 3.事務局より 4.連絡会の開催について 5.子ども食堂向けイベント 6.研究会より 7.次回世話会会議の予定	自治体3名 社協3名 非営利2名 大学2名
	第5回連絡会	2025年2月21日(金) 13:30～17:00	@大阪大学中之島センター 5F いのち共感ひろば	プログラム: 1.開会のあいさつ 2.話題提供 3.グループディスカッション 4.交流・名刺交換 5.閉会のあいさつ	自治体21名 社協9名 非営利9名 民間団体5名 大学5名
	世話人会	2025年3月6日(木) 11:00～	オンライン	議題: 1.連絡会の振り返り 2.2024年度の活動報告 3.2025年度の活動予定 4.その他	自治体2名 社協3名 非営利6名 大学2名

04 大阪府こども食堂ネットワークの概要

1. 大阪府こども食堂ネットワークの特徴

大阪府こども食堂ネットワークは、大阪府内の自治体、社会福祉協議会、民間非営利活動団体などが、こども食堂や居場所づくりへの中間支援を行う団体が構成メンバーとして参画するネットワーク団体で、大阪大学大学院経済学研究科が事務局を、一般社団法人タウンスペースWAKWAKが共同事務局を担っています。こども食堂などの全国的なひろがりとともに、こども食堂などの活動を支援する中間支援団体やネットワークも拡大していますが、大阪府こども食堂ネットワークは大学が事務局を担うという特徴があります。



大学がネットワークの事務局機能を持つことには、他の中間支援組織にはない独自の強みと可能性があります。例えば、大学には調査・研究機能が備わっており、現場で見えてきた課題を学術的に分析し、可視化・理論化することができます。実際に私たちは、こども食堂の利用が子どもや地域にどのような影響を与えているのかを検討するため、学校や自治体と連携した調査を進めています。また、大学は中立的な立場から多様な関係者のハブとなりやすいという利点があります。自治体・社会福祉協議会・民間非営利団体など、立場や役割の異なる組織が対等に対話できる場づくりを、大学が事務局となることで実現しています。さらに、大学には学生の参加など人材育成の機能もあり、ボランティア活動や地域イベントの企画・運営などに学生が主体的に関わる機会をつくることができます。こうした学びの場は、若い世代が地域課題に関心を持ち、将来的な担い手として育っていくきっかけにもなっています。

2.大阪府こども食堂ネットワークの心得とお作法

大阪府こども食堂ネットワークでは、多様な立場や背景を持つ関係者が安心して参加し、自由に意見交換できるようにするため、「心得とお作法」を定めています。これは、ネットワーク内でのコミュニケーションにおいて、立場や肩書にとらわれず、対等で自由な関係性を築くための基本的なルールです。

参加者同士は、所属や肩書にかかわらず、「さん付け」で名前を呼び合うことを基本とし、発言についても、所属組織を代表する「公式な意見」ではなく、あくまで個人の思いや経験に基づく発言として受け止める姿勢を共有しています。成果や成功事例だけでなく、うまくいかなかったことや迷い、葛藤も共有し、互いの視点や立場の違いを理解し合い、学び合う場づくりを大切にしています。

大阪府こども食堂ネットワーク連絡会

令和五年二月三日

大阪府こども食堂ネットワークをみなさんの参加と協働ですすめていくための「心得とこころえ」と「お作法」を、参加するみなさんで考えて作り上げていきましょう。誰もが自由に意見をすることができ、常に改良し前進させましょう！

「心得とこころえ」

参加するうえでの気持ちの波長合わせ

- 一 助け上手、助けられ上手 お互い様の精神で
- 一 大阪らしく、おもしろく、たのしく、らしくしよう
- 一 お互いに理解し、実践を共有し、やる気になろう
- 一 自主的に、自由に、活発に、そして協働しよう
- 一 府下の子ども食堂に有益な情報はまず共有しよう
- 一 道行之而成

「お作法」おさほう

参加するうえでのルール

- 一 参加者みなさんは、対等な関係である
- 一 意見は自由に表明し、でも批判はしない
- 一 個人の意見を組織の考えとせず、言質はとらない
- 一 世話人は立候補すると就任できるし、退任できる

「協働」とは

複数の主体が、何らかの目標を共有し、ともに力を合わせて活動することをいう。同じ目的のために、対等の立場で協力して共に働くこと。協働はそれぞれができること、得意分野のことをする場合に用いられることが多い。

この「心得とお作法」は、単なるマナーではなく、関係性づくりの哲学そのものと位置づけられています。参加者が安心して自分の言葉で語ることができるこの空気感が、府ネットの対話と協働の土台を支えています。今後も、この「心得とお作法」を共有しながら、参加者同士の信頼関係を深め、誰もが歓迎され、尊重されるネットワークづくりを進めてまいります。

05 2024年度の主な取り組み

1. シンポジウム

2024年9月26日(木)13:00~17:00に大阪大学中之島センター5Fいのち共感ひろばにて、シンポジウム「地域ではぐくむ こどもと未来」を開催しました。本シンポジウムは、大阪府内のこども食堂への中間支援に取り組む自治体や社協、民間団体などを中心に60名が参加しました。

開会のあいさつでは、福田さんより、「こどもたちが健やかに成長し、自信を持って未来へと歩いていくためには、大学、自治体、社会福祉協議会、地域住民等、多様な関係者の皆さまが一体となって、持続的に支援していくことが重要」であり、シンポジウムを通して「地域社会を支える方々と共に、多角的な視点から議論を深めていくことが大切だ」と力強いメッセージをいただきました。

基調講演では、湯浅さんより”中間支援組織”の役割について、お話いただきました。まず、地域の中でこども食堂が増えていくには、資金や物資の支援だけでなく、運営者が孤独にならず、思っていることを言語化して『言える相手』や『話をできる場』をもてることが重要です。こども食堂は、開催当日の運営だけでなく、運営に必要な資源確保において様々な手続きが求められます。こうした側面的な活動において、運営者は孤独になりやすい状況にあります。こども食堂を支援する中間支援組織は、資金や物資の提供だけでなく、運営者が孤独にならず『話をできる場』をつくる役割が期待されます。

また近年では、こども食堂は「社会の変化にたえうる地域（＝地域レジリエンス）を作る機能」を持った活動であると考えられるようになっていきます。この機能をより高める中間支援には、組織や立場（縦割りの関係）を超えた協働が必要不可欠です。大阪府こども食堂ネットワークは、研究機関である大学内に事務局を置く全国唯一のネットワークです。大阪府ではこの特徴を活かし、こども食堂を取り巻く関係者の対話の場づくりを促進し、協働を実装することが期待されます。

続く講演1では、上須さんより、大阪府内のネットワークについて、大阪府こども食堂ネットワークで行ったアンケート結果を報告いただきました。アンケートの結果から府内の地域ネットワークの主な活動内容は、『情報・物資の共有』『交流促進』が上位でした。活動の効果では、『大きな窓口としての機能』『実践・情報の共有』『励みや元気をもらう場』などが挙げられ、基調講演とも共通点の多い結果となりました。他方、『人員体制』『財源』などは課題としてあがり、今後、府域全体で課題解消に向けた検討が必要であることが示されました。

講演2では、府内3つの地域ネットワークから、話題提供していただきました。トップバッターは、和泉市の鍛冶さんです。和泉市では、助成金による支援を行わない一方で、自治体がこども食堂運営者のための『場づくり』を行うとともに、職員が各地域のこども食堂へと出向き、実際に活動に参加することを大切にしています。こうした取り組みは、自治体が市内のこども食堂を牽引するパートナー型＝共生型支援の実践といえます。

次は、堺市の森さんと藤本さんです。堺市では、社会福祉協議会が府内でも早い時期からネットワーク活動に取り組んでいます。また、区事務所では、より地域密着型で運営者に伴走支援を行っています。『親も夢を』持てるようにと地域で長年活動している森さんは、何か相談したいことは藤本さんを訪ねて対話を重ね、相互理解を深めながら、多くの地域住民が集う場を作り続けてこられた経験をお話いただきました。

最後は、高槻市の藤本さんと衣川さんです。高槻市では一般社団法人であるWAKWAKが市町村よりもさらに地域に密着した小地域単位でのネットワーク活動に力を入れています。衣川さんは、小地域ネットワークの機能を活かし、一からこども食堂を立ち上げた様子をお話くださいました。民間団体の特徴である柔軟性と即応性を活かし、地域住民や関係者を小地域単位でつなぐことによって、こども食堂の活動を支えています。3つの事例からは、多様なネットワーク活動が中間支援として地域活動を支える様子が共有されました。



【プログラム】

開会のあいさつ：福田祐一 大阪大学理事・副学長

基調講演：「人を活かす地域づくり」

湯浅誠 認定NPO法人全国こども食堂支援センターむすびえ

講演1：「大阪府こども食堂ネットワークの活動と大阪府内のネットワークの現状」

上須道徳 大阪大学大学院経済学研究科

講演2：各地域ネットワークより話題提供

話題提供1：「和泉市における「こどもの居場所交流会」～自由な対話を通じて～官・民共生による地域コミュニティ活動」
鍛冶みか 和泉市子育て支援室こども政策担当

話題提供2：「さかいこども食堂ネットワークについて」

森重子 マリリンの家・藤本浩一 社会福祉法人堺市社会福祉協議会北区事務所

話題提供3：「地域ではぐくむこどもと未来ー地域ネットワークのこれまでとこれからー」

衣川雅子 桜台みんな食堂・岡本工介 一般社団法人タウンスペースWAKWAK

グループワーク：話題提供を受けて、地域ではぐくむこどもと未来を考えるワーク

2. 連絡会

2025年2月21日(金)13:30~17:00に大阪大学中之島センター5Fいのち共感ひろばにて、「第3回大阪府こども食堂ネットワーク連絡会」を開催いたしました。通算3回目となる連絡会には、大阪府内の自治体、社会福祉協議会、民間団体、大学より49名が参加し、対面での対話と交流を行いました。

まずはじめに、上須さんより開会のあいさつを行いました。開会のあいさつでは、改めて大阪府こども食堂ネットワークについてお伝えするとともに、改めて【心得】と【お作法】を共有しました。

次に、西山さんより「地域を支える中間支援～大阪府こども食堂ネットワーク～」について、話題提供を行いました。

さらに、グループワークでは、「みんなでつくる 大阪こども食堂イベント」に向けて、各グループで大阪府こども食堂ネットワークとして、どのような企画に取り組みたいか対話し、話し合った内容を全体で共有しました。

最後は、参加した全員で交流会を行いました。



【プログラム】

開会のあいさつ

話題提供：「地域を支える中間支援～大阪府こども食堂ネットワーク～」

西山朋代 大阪大学大学院経済学研究科特任研究員

イントロ：グループディスカッションへのイントロダクション

上須道徳 大阪大学大学院経済学研究科教授

ワーク：「みんなでつくる 大阪こども食堂イベント」に向けて

交流会：交流・名刺交換会

閉会のあいさつ

3. 世話人会

大阪府子ども食堂ネットワークにおける世話人会は、ネットワークの運営方針や事業計画を協議・共有する場として、非常に重要な役割を担っています。2024年度は、4月・7月・11月・翌年3月の計4回にわたり開催され、子ども食堂などの中間支援に関わる多様な主体（自治体・社会福祉協議会・大学・民間非営利活動団体等）がオンラインで集い、ネットワークの運営基盤強化や今後の方向性などについて継続的な協議を行いました。

2024年度の世話人会は、ネットワークの基盤形成期を支える舵取りの場として、組織的・地域的・人的な広がり丁寧に積み上げてきました。今後も、子ども食堂を起点とする地域のつながりづくりを支える中間支援のあり方を、世話人会を通じて模索・実装し、地域での持続的な支援の仕組みを構築してまいります。

【2024年度 世話人会】

- ・ 第1回世話人会 2024年4月23日（火）10：30～ オンライン
- ・ 第2回世話人会 2024年7月23日（火）13：00～ オンライン
- ・ 第3回世話人会 2024年11月27日（火）10：00～ オンライン
- ・ 第4回世話人会 2025年3月6日（木）11：00～ オンライン

4. ホームページ

大阪府子ども食堂ネットワークでは、情報発信の強化とネットワークの見える化を目的として、2024年度に公式ホームページ（<https://osaka-kodomonet.org>）を公開しました。

このホームページは、多様な立場の方々が活動の状況を共有し、発信するためのプラットフォームとして運用をしています。



5.取材

2023年度に発案された企画「となりの人間国宝さん」は、府内各地の子ども食堂や地域ネットワークの取り組みを把握・発信するために、継続的な取材活動です。この活動は、単なる情報収集や発信だけではなく、子ども食堂をめぐる多様な実践と地域のつながりを可視化し、ネットワーク全体の信頼関係の構築と共有知の蓄積を目的とした取り組みです。

この活動では、地域で活動する子ども食堂とそれを支える中間支援団体の運営者をペアで取材し、これまでの歩みや現場での思いを自然な対話を通して、お聞きしています。2024年度は、堺市の「マリリンの家」、高槻市の「桜台みんな食堂」、豊中市の「ガラクタハウス」、八尾市の「いってらっしゃい!」、大阪市淀川区「子民家よってこ」を取材しました。取材記事は大阪府子ども食堂ネットワークの公式ホームページに掲載し、広く情報発信しています。



6. こどもの声を聴く・届けるプロジェクト

こどもの声を聴く・届けるプロジェクトでは、学校と大阪府こども食堂ネットワークとの協働関係を構築すべく、「学生のつどい」と連携して、豊中市子ども政策の取り組みに参加しました。2024年10月、学生と豊中市こども政策課との間で意見交換を行い、2024年12月から2025年1月にかけて、市内中学校・高校でのヒアリングに同席しました。こども食堂をはじめとした、関係機関とともに、引き続き検討していきます。



7. 食といのちプロジェクト

食といのちプロジェクトは、自然環境や農地が乏しい地域に住む子どもたちを対象に、農業生産の現場や家庭での体験を通じて、食物の生産や流通について学ぶ機会を提供することを目的に実施しました。今回は大阪府こども食堂ネットワークの参加メンバーである能勢町福祉部の協力で、2025年2月2日にお野菜収穫体験会を実施しました。地元農家の須美ふぁーむ、東大阪市社会福祉協議会の協力を得て、ニンジンや長ネギの収穫と豚汁作りを行いました。このプロジェクトでは、親子体験の機会だけでなく、大阪府こども食堂ネットワークに参画する地域間の交流事業のモデルにもなりました。



06 まとめ

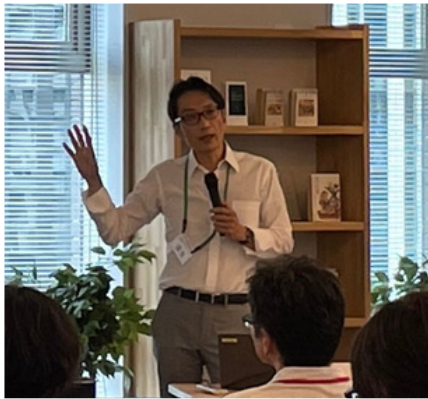
大阪府こども食堂ネットワークは、自治体、社会福祉協議会、民間非営利団体などが連携し、こども食堂や子どもの居場所づくりを支援する中間支援組織として構成されています。大阪大学大学院経済学研究科が事務局を、一般社団法人タウンスペースWAKWAKが共同事務局を担うという、大学が中核を担う体制が大きな特徴です。

本ネットワークは、「地域ではぐくむ」という理念のもと、立場や分野を超えた多様な人々が自由に対話し、協働する仕組みを整え、子どもと社会を支える基盤づくりを進めています。また、「調査・実践・対話」の循環を軸に、現場で見えてきた課題を大学の研究へと還元し、実践の質の向上と知の共創を図っています。

大学が事務局を担うことで、調査・研究機能を活かした課題の可視化や、中立的な立場からの対話の場づくり、多様な主体の協働促進が可能となります。さらに、学生の参加を通じた人材育成も進められ、若い世代が地域課題への関心と責任を育む機会にもつながっています。

そして本ネットワークは、こども食堂を支える中間支援団体の関係者にとっても、実践を振り返り、他者とつながり、学び合うことのできる「居場所」となることを目指しています。ともに学び、ともに考え、ともに未来に向かって進む——そんな関係性を育むネットワークでありたいと願っています。

上須道德



大阪府こども食堂ネットワーク 事務局



大阪府豊中市待兼山町 1 - 7



osaka-kodomonet@googlegroups.com



<https://osaka-kodomonet.org/>

